

小規模大学における IR

企画者・話題提供者：白石哲也（清泉女子大学情報環境センター）
企画者・話題提供者：橋本智也（京都光華女子大学 EM・IR 部）
司会者：山本 鈺（九州工業大学インスティテューショナル・リサーチ室）
話題提供者：田尻慎太郎（横浜商科大学 IR 室）
話題提供者：白鳥成彦（嘉悦大学 IR 推進室）
指定討論者：小湊卓夫（九州大学 基幹教育院）
指定討論者：畷田敏行（茨城大学 全学教育機構 総合教育企画部門）
指定討論者：山崎その（京都外国語大学総合企画室）

近年、IR 担当組織の設置及び担当者の配置が全国の大学で増加している。そして、その取組みや方法論においては、国立大学や中・大規模私立大学などの大学が先行しており、それらの活動を参考として自大学の IR 活動に適応させることが多い。しかし、小規模私立大学では国立大学や大規模私立大学に比べて人的・財務的資源などの諸条件が異なり、そこでは大規模大学の事例が必ずしもモデルケースになり得ないことも多い。では、そうした小規模大学において IR 活動を推進するためには、どうすれば良いのか。このセッションでは、小規模大学における IR の特性を明らかにすることを目的として、4 大学の事例を踏まえて、多角的な検討を行いたい。

1. 「組織横断的な総合学生支援策」の充実を目指した IR 活動 橋本智也

本セッションでは、京都光華女子大学の IR 活動について、入学・在学・卒業の各段階に関する組織横断的な情報提供の事例（1 年生前期の出欠状況週次レポート、教育目標と提供科目の関係、卒業生満足度と就職状況の関係など）を具体的な業務レベルで報告する。また、IR 活動を通して見えてきた実務的な課題と今後の展望（体系的と重点項目のバランス、協力者へのフィードバックの徹底、既存業務の改善など）についても報告する。

事例報告を通して、小規模大学で IR 活動を進める際の工夫と課題について、セッションメンバーと参加者の方々に率直な意見交換を行いたい。

2. 清泉女子大学における教学 IR の現状と課題 白石哲也

清泉女子大学では教学 IR を中心として、日々、教学に関わるデータの収集・分析を実施している。ここでは入試、在学時学修状況、就職、卒業をトータルした調査・分析を行っている。なかでも入試や就職に関するデータの集約については、既存の様々な紙媒体データなどをテキスト化することで、多角的な分析を実施し、できるだけ綿密な調査・分析を行うようにしている。同時に、2016 年度は IR の学内広報に注力してきた。その結果、人的資源の限界などの難しい部分は生じつつも、多くの教職員から IR のデータ提供依頼が増加し、学内で IR のデータに基づいた議論が活

発化してきた。本発表では、そうした清泉女子大学の教学 IR の現状までの成果と課題について、事例を踏まえつつ報告を行う。

3. 嘉悦大学における IR 推進室の取り組み

白鳥成彦

本セッションでは 2015 年、2016 年と嘉悦大学で行ってきた教学 IR の成果を共有するとともに、実践の中で明らかになってきた課題点を報告する。教学 IR においては教学データである出席率や学修状況調査の結果等の分析を行っていく中で、それぞれの授業コンテンツの方向性つまり授業時間内の実施の方向性はあっているが、授業外の取り組みが不足していることが分かってきた。授業外の取り組み不足により学生の学習時間の確保が行われていないことを指摘し、課題等の授業外の取り組みまでを含めたカリキュラムデザインとシラバスの設計を提言した。課題点としては大きく 3 つあり、IR データ分析と他組織との連携という課題、小規模大学のため IR 分析が兼任という形になってしまうというリソース不足の課題、最後に IR データを活用した 3 ポリシー、シラバス設計という全体カリキュラムへの提言をどうするのかといった課題である。

4. 3 ポリシーの見直しをテコにした IR オフィスの立ち上げ

田尻慎太郎

IR 担当者の集まりに参加すると、自学で IR 部署を設置することになり自分が兼務で担当することになったが何から初めてよいか分からない、という話を耳にすることが多い。横浜商科大学でも同様に学部所属の教員 1 名で IR 室を設置したものの、当初は細々と文部科学省の調査などに対応した分析をおこなうに留まっていた。

そうした状況を変えるきっかけになったのが 3 ポリシーの見直し委員会の事務局を IR 室で担うことになったことである。3 ポリシーの策定・見直しは教育の質保証を目的とした Institutional Effectiveness 業務であり IR よりも広範なものだと考えられる。しかしディプロマ・ポリシーに掲げられた目標が、入学から卒業までの過程においてどのように達成されているかを一貫的に評価するためには、各種調査の統合・連携が欠かせない。それまでバラバラに実施されていた調査に、DP という観点から IR 室が要として加わることによって教学 IR としての位置づけを明確にすることができた。本発表では IR オフィスの立ち上げの一事例としてこうした経緯と更なる課題について報告し、同様の課題に悩む参加者への話題提供としたい。

各大学の規模

大学名	学生数（大学院含む）*1	大学構成	専任教員数	所在地
京都光華女子大学 *2	1,835 名	4 学部 2 研究科	117（含助教 12） 名	京都府京都市
清泉女子大学	1,965 名	1 学部 1 研究科	56 名	東京都品川区
嘉悦大学	1,070 名	2 学部	50 名	東京都小平市
横浜商科大学	1,157 名	1 学部	45 名	神奈川県横浜市

*1：学生数は、平成 28 年 5 月 1 日現在

*2：短期大学部を含む